


[ホーム](#) | [製品](#) | [サービス & ソリューション](#) | [サポート & ダウンロード](#) | [マイアカウント](#)

[DB2 Developer Domain](#) > [製品別技術情報](#) > [DB2いろはがるた](#) >

DB2いろはがるた

DB2いろはがるた



第17回

「れ」-レジストリー変数、たくさんあって迷っちゃう



執筆者

春野 さくら

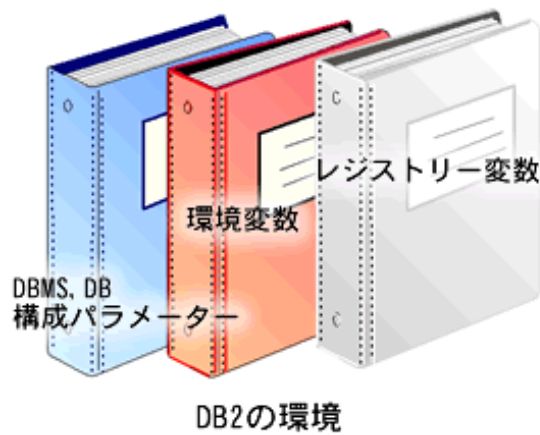
「DB2いろはがるた」を執筆するために参上した、なぞの女性。
日本の古典文学を愛する。

毎日暑いですね。もう溶けてしまいそうな暑さです。かき氷になりたい気分です。どうせなら、いちごミルクでしょうか？今回はDB2の環境についてお話しします。

DB2 UDBでは、リモート・データベースへのアクセスに使用できるプロトコル、データベース関連のファイルを探す時にアプリケーションが使用するパス、データベースやアプリケーションが使用するいろいろなバッファーに割り当てられるメモリー量など、さまざまなデータベース関連のファクターを制御するメカニズムがあります。これらの環境は以下のパラメータによってユーザーがコントロールできます。

DB2 プロファイル・レジストリー
OSの環境変数
DBMS, DB構成パラメーター

DB2 UDBの環境の大部分は、DB2プロファイル・レジストリーに保管されている値によって制御されています。このプロファイル・レジストリーの目的は、DB2の主要な制御ファクターを集中的配置して、簡単に管理できるようにすることです。実はV6以前には、プロファイル・レジストリーという概念はDB2にありませんでした。環境値はすべて環境変数に設定するようになっていました。しかし、ご存知のようにシステムの環境変数はオペレーティング・システムの種類によって、その設定方法、有効になるタイミングなどいろいろな違いがあるので効率的ではありません。そこで、オペレーティング・システムに依存する環境値は、環境変数で設定し、オペレーティング・システムに依存しないDB2の環境変数としては、プロファイル・レジストリーに設定するように変更されたわけです。これは賢明な決定だったと思います。例えば、DB2のプロファイル・レジストリーとしては、DB2CODEPAGE, DB2DBDFT, DB2COMMなどがあります。環境変数としては、DB2INSTANCE, DB2PATHなどがありますが、これらはオペレーティング・システムの種類によって、WindowsNTではシステム環境変数、UNIXではdb2profile, db2cshrcなどに指定します。



実は、DB2プロファイル・レジストリーの中は階層構造になっています。システムに対してグローバルに適用されるもの、データベース区画間(DB2 UDBエンタープライズ拡張版)にまたがって適用されるもの、特定のインスタンスだけに適用されるものと、DB2プロファイル・レジストリーは次の4つのレジストリーに分けられています。

DB2インスタンス・レベル・プロファイル・レジストリー

特定インスタンス用の変数の設定値

DB2 グローバル・レベル・プロファイル・レジストリー

特定インスタンス用の変数が設定されていない場合は、このレジストリーが使用されます。このレジストリーにはマシン全体用の変数の設定値がはいっています。

DB2 インスタンス・ノード・レベル・プロファイル・レジストリー

データベースが区分データベースの場合、ノードごとにレジストリー値を設定できます。

DB2 インスタンス・プロファイル・レジストリー

システムによって認識されたインスタンス名の全リストがはいっています。

レジストリー情報には、変数の名前と値がファイルに保管されています。ただし、これらのファイルを直接編集したり、操作することはできません。一般的にDB2では、Oracleと違って、ほとんどの設定で、テキスト・ファイルを直接編集することは最小限に抑えられています。これは人間というのは間違いを犯しやすいので、その不注意からくるミスをできるだけ防ぐという設計思想からきています。(そうですね！人間というのは完全でない悩める存在なのです。しみじみ~) そこで、レジストリー値を表示したり、編集するには、db2set コマンドを使用します。DB2 レジストリーは更新が適用された後で、開始したアプリケーション(DB2本体も含む)に対して更新された情報を適用します。インスタンス・レベルで変更を行った場合には、db2stop/db2startを実行する必要があります。ユーザーの環境用に設定されているプロファイル変数の全リストを見るには-allを指定します。

```
db2set -all
C:¥SQLLIB¥BIN>db2set -all
[e] DB2PATH=C:¥SQLLIB
[i] DB2INSTPROF=C:¥SQLLIB
[i] DB2COMM=TCPIP,NPIPE
[g] DB2SYSTEM=SUGAHARAK
[g] DB2PATH=C:¥SQLLIB
[g] DB2INSTDEF=DB2
[g] DB2COMM=TCPIP,NPIPE
[g] DB2ADMINSERVER=DB2DAS00
```

インスタンス・レベルの設定値の前には[i]が表示され、グローバル設定値の前には[g]が表示されます。変数の値を変更するには、次のようなパラメー

